



漫 録



カレント・ト・ピツクス

武 若 時 一 郎

ランカシヤアの公營運輸事業合同案

イギリスの西南ランカシヤアと東チエシヤアに、合同公
 營旅客運輸局を設置しようといふ計畫は、一九三一年以來
 の懸案であつたが、關係當局者が屢々マンチエスターで會
 同して協議を凝らした結果、漸く一個の成案を得たので、
 目下夫れぞれ實行の準備中であると備へられてゐる。昨年
 九月に發表されたところによると、アシントン・アングダー・
 ライン、ボルトン、バリー、マンチエスター、オールドハ

ム、ロツチデール、サルフォード、ストツクポート、以上
 の八つの都市の旅客運輸事業と、既に合同の管理局を設け
 てゐるステリーブリツヂ、ハイド、モスレー及びダキンフ
 ールドの旅客運輸事業を合併しようといふのである。

これらの關係都市の投資總額は、一九三二年三月現在で
 一〇、〇四六、四九〇ポンド、償還未済の負債は四、一三
 八、二八九ポンド、収入總額は四、一五六、六五八ポンド
 で、經營費、負債償還額その他諸經費を差し引いた後の純
 収入は僅かに一一二、九三六ポンド、即ち投下資本の一分

一厘二毛となつてゐる。

現在私設會社が、一層能率的に公衆の利用に供すると共に、經營費の節減を行ふために、續々その資本を合同してゐる際に、地方廳が如何にして將來も個々別々の系統を維持しながら、而も大きく經營してゐる會社と相當の刀打ちをしてゆくか、全く想像が着かない。殊に最近、數多の市營電車系統が乗合自動車會社によつて買収されてゐることから考へれば、關係公共團體が大團結しなければ、それらの公營事業を維持してゆくことは到底不可能である、といふのが合同案の大きな理由となつてゐるのである。

現在では總てが重複してゐる。九つの公共團體が夫れぞれ電車、自動車の豫備を有し、架空線の應急修理を行ふ職員を置き、道路の修繕、維持及び改築のために常設の機關を設け、各々宏大なる工場を備へてゐるのである。だから、一つの合同管理局を設置して、電車及び自動車の事業を全部一と纏めにして經營し、現在の分割的管理の不利を除去しようといふのが、合同案の眼目である。

局は恐らく、協定比率によつて關係都市から選出された代表者をもつて組織することになるであらう。これらの代表者は、合同事業の管理について全責任を負ひ、九系統の負債及び資産を承繼し、夫れぞれの公共團體に對してはその代表者のみを通して責任を負ふことになるであらう。一般公衆からも代表者を出すことにした方がよい、定員の三分の二は關係都市の代表者とし、その後へ局の事業地域内に於ける他の公共團體の代表者を入れることにして、局の事業經營に一般旅客の意思を反映させる様にしなければならぬ、といふ意見も行はれてゐる。

この計畫の法律上及び財政上の方面は、既に關係者の協議會に於いて研究済みとなつてゐる。各關係公共團體の協議が纏り次第に、法律案を議會に提出する手筈になつてゐるといふことである。

ベルギーの踏切事故

ベルギーでは鐵道系統の密度が非常に大きいために、平

面交叉によつて、少くとも一回横斷されない道路は、國內に殆ど一線もないといふ状態である。道路四マイルについて平面交叉一個、といふ割合になつてゐる。道路（極く局部的なものを除く）の全長二五、〇〇〇マイルのところへ、鐵道は延長約六、〇〇〇マイルであつて、交叉點の總數は實に六、九七六個所、換言すれば、鐵道一マイルについて一個所以上といふ割合になつてゐる。この中、踏切番を置いてあるのが僅かに二、五五八個所で、あとの四、四一八個所は遮斷機もなければ番人もゐない。種々の型式の自動信號機も試験されてはみたが、いづれも故障が多くて實際の役に立たず、たまに機械的効率のよいものがあつても、心理學的效果が、ベルギーの道路使用者の性質に對して不十分であり、又は不適當であつて、豫期した様な効果が擧げられない。その適切な事例は、連續的に赤色の閃光を發する信號機であつて、これはスエーデンの鐵道に採用されて、非常な好成绩を收めてゐるものであるが、一九三〇年に、この型式の信號機を、ベルギーの三十六個所の交叉點に設

備したところが、爾來一九三三年までの三年間に、事故が十五件發生した。この件數は皮肉にも、右の三十六個所の交叉點の警報信號機附以前に於ける過去三ヶ年の事故發生件數と、びつたり一致してゐるのである。スエーデンで好評々たる信號機も、ベルギー人にかかつては一向能書ほどの效能がない。統計の示す如く、踏切事故は殆ど全く道路使用者の側の極端なる不注意に起因するものであるから、ベルギーの鐵道會社は、番人を置かない交叉點の危険を最小限にするため、従來いろ／＼と自動的鐵路信號機の實驗を繰り返して來たが、當分これを中止することに決定したといふ話である。

テームス河の水上バス計畫

ロンドン旅客交通法の指すところによつて、テームス河を旅客施設のために利用することの能否は、新たに出來た交通局に於いて研究すべき事項の一つとなつてゐるが、この問題の立役者に水上バンを引き出さうといふ説が一部に

唱へられてゐる。川蒸汽といふと陳腐だが、同じことでも水上バス、といへば妙に現代的な施設の様に響くから、言葉といふものは變なものだし、又粗略に出来ないものだと思ふ。

計畫の主要は、ティムス河に屋根着きのボンツーンを二十四基設ける。これが所謂水上バスの發着所となる。特殊の設計に係る船を約五十隻建造して、春夏秋冬、晴雨を論ぜず、一定の時間表の下に運航さる。運轉區間は、ハンマリスミスからロンドン橋まで、ウールウィッチからロンドン橋までの兩區間である。所要時間は停船回数によつて異なるが、上流區間は三十一分乃至四十五分、下流區間は三十四分乃至四十八分の見込みで、各驛停車(?)の外に、ノン・ストップの船も數回出ることになつてゐる。水上交通特有の條件によつて、交通上の要求に従つて、以上の回数を隨時變更することも出来る譯である。ラツシユ・アワーは、最大能力を發揮して、毎時間十五隻を運轉し、その他の時刻には、運航回数を減じる様にして、時間表を作ることに

なつてゐる。

以上の計畫は、ハーバートといふ人を會長とする私設委員會、所謂「ティムス水上バス委員會」が發表したものであるが、同委員會が一般の意嚮を確めるために、乗りたいと思ふ區間、現在の交通所要時間、水上交通を好む。理由等に對する回答を廣く募つてみたところが、「ロンドンの河の固有の用途と品位を復興し、「ロンドン最大の街路」を現代的な且つ氣持のよい交通施設に利用することによつて、市中の輻輳を救済しようといふ委員會の努力に對して、吾人も相當寄與し得ることを承知して、甚だ満足を感じる者である」といふ様な嬉しい返事もあつて、係の者は甚だ満足を感じてゐる、といふことである。

この計畫が乘るも反るも、一に懸つて財政關係に在るわけだから、交通局に於ては、目下この財政的方面の研究、調査に折角努力してゐるさうであるが、愈々この點も大丈夫といふことになれば、モダンな乗合船がロンドン橋を中心として、ティムス河の上下を、輕快に疾驅することに

なるわけである。

自動車とデイーゼル・エンジン

デイゼル・エンジンを自動車に應用する様になつたのは、比較的最近のことであつて、イギリスでは一九三一年の、自動車博覽會に出品されたのが、非常な賞讃を博した以來のことである。然しロンドンのアームストロング・ソーラー自動車會社の統計の示すところによると、既にこの會社及びその姉妹會社に於いて製作した自動車だけでも三千臺以上に騰り、總走行マイル數二二〇、〇〇〇、〇〇〇マイル。一ヶ月平均約一〇、二〇〇、〇〇〇マイル、即ち一日三十四萬マイルとなつてゐる。以上の數字は、重油を焚くデイーゼル・エンジンが、石油エンジンと競争して、毫も遜色のないことを示すものであつて、これに力を得た技術者達は、目下タクシーや家用自動車に用ゐる小型高速デューゼル・エンジンの研究に没頭してゐるといふ話。

トラックの積載重量調査

街路上にも村道上にも至るところ物凄い地響をたて、疾走するトラック群の道路橋梁を破損する率が逐次激増する傾向にあるので、内務省ではこれが対策として重量トラックを目標とする國防産業上、確固たる道路網を完成するため、先づこれが根本資料として疾走トラックの重量調査を開始してゐるが、去る二月大阪に於て「ロードメーター」といふオイル壓力を利用した計量器を用ひてトラック七十五臺の積荷重量の調査を行つた。それによると一噸積三十四臺、一噸半積三十四臺、二噸積六計七十五臺の内規定積載量の三倍以上のものが二十三臺、二倍以上のものは殆んど通常にして、中には一噸半積のもので七噸といふ重荷を積んで疾走してゐた。斯の如く全部が全部規定積載量を超過したまゝ勇敢に疾走し、トラックの八割三分までは危険な重荷を背負はされてゐる状態であつた。かゝる積載過重のトラックが府下の道路を破損する率は甚大なるため、府土木當局では府警察當局と聯絡して大いに取締りを嚴重にし、被害防止に努めることゝなつた。